

日本地球電気磁気学会会報 (第14号)

1964年10月23日

日本地球電気磁気学会

事務所 東京都文京区森生町3

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 (812) 2111, 内線 6476

振替 東京 4860番

第36回講演会および総会経過報告

先に皆様へ東北大学からプログラムを直送してありましたが、その通りの日程にて10月17日(土)、18日(日)、19日(月)の3日間にわたりまして東北大学松下会館で開催されました第36回講演会および総会は盛会裡に終了いたしました。会の準備・進行・会員宿泊所確保には大会委員長加藤安雄教授以下東北大学理学部地球物理学教室の方々に御世話になりました。

講演会では、プログラムに記載されておりましたもののうち、講演番号13, 26, 27は都合により取消になりました。講演番号72は、論文著者に久野久(東大理)が追加されました。講演会はいつもの通り大変盛会で治癒な質疑応答がありました。講演申込が多岐でありましたため、質疑応答の時間を残すよう各講演者が講演時間短縮に協力下さいましたことを厚く御礼申し上げます。

以下に第36回総会における議事報告を記してあります。総会出席者は約85名でした。総会に力武評議員が議長に推薦され、大会委員長加藤評議員の挨拶で始まりました。その後経過報告(庶務、会誌、学会連合)、田中館長受賞者発表および授賞、田中館長審査報告、委員長挨拶、名誉委員長祝辞、その他(次回開催地協議など)の順で行なわれました。

庶務報告 詳しいことは学会会報を通じて各会員にお知らせすることにしていきますので次の事項だけ福島運営委員から報告しました。

1. 地球電気磁気学研究会将来計画が小委員会 노력により、一応まとまったので反印刷して各会者に配布しました。小委員会では今後とも将来計画に関して積極的な御意見を各会員からいただけることを希望しています(本会報

(2)

末尾に記しました学会事務局からのお知らせを御参照下さい)

2. 本年度学会誌発行に対する文部省助成金は130,000円と決定した通知がありました。
3. 別刷交換会は現在加入者40名で運営している。(新しく加入を希望される会員は学会事務局まで入会案内を請求され、必要の手続きをとって下さい)
4. 昭和39年度末をもって新制度第2期役員任期が終了しますが、来春の学会までは現役員が学会を運営します。第3期役員選挙は昭和40年2月～3月に行っておき、来春の学会の際に事務引継ぎを行います。なお選挙に際しては、昨年秋の総会で定められた通り、運営委員幹事及び名を定め公表します。
5. 新入会員氏名紹介 昭和39年5月28日～10月15日の間に新規入会が承認されました方々の氏名を紹介しました。(ここでその方々の氏名を再録することは省略させていただきますが、既に第13号会報までに紹介されました方々の他には、

A. C. Atkin (U. S. A.) S. H. Ward (U. S. A.)

の西外国会員がおります) 現在会員数は、国内会員255名、国外会員43名、計298名が総会員数となっています。またこの学会期間中あるいは、今後入会申込をされます方々につきましては、適当な機会に学会々報致上に掲載させていただきます。

会誌編集報告 (大林運営委員) J. G. G. 誌第16巻第2号が印刷完了し、第3号は現在校正進行中であり、間もなく刊行の運びにいたること、第4号以降は現在原稿募集中であると経過を報告しました(学会事務局からのお知らせ参照)。本学会講演会でも各会員が発表されます研究成果をなるべく早くまとめられて多数投稿していただくようお願いいたします。なお、学会誌がますます海外に進出しつ、ある時にあたって、今後 J. G. G. 誌の体裁についても考え直してゆきたいと報告がありました。

学会連合関係 秋本運営委員に代って、福島運営委員が、本年度学会連合当番 学会は日本火山学会が担当していることを報告しました。

田中篤賞 今回の総会で授与されたのは

第33号 地磁気変動の研究

地磁気変動の観測と地球物理学的諸現象との関連

齊藤 尚生

破気圏内の電磁流体波の伝播

王尾 政

で、授賞式後、委員長から上記論文に対しての審査経過報告がありました。

委員長挨拶 恒例の委員長挨拶と前田委員長が若されたことの概要は次の通りです。

本学会での研究分野に関連ある国際会議としては、今夏 Boulder で U.L.F. シンポジウム、Hamburg で Solar-Terrestrial Relations の会が開かれ、また 11 月には Berkeley で岩石磁気、Pittsburgh では地球内部電磁現象についての会議が開かれる。著外国における研究、進展状況を知らするためには、本学会として講演会に際して報告をしていただく時間的余裕がないので、出席者から個々に情報を聞いていただく。

南極観測が再開されることになり、来年の今時は出発準備に多忙を極めている時期となる。南極観測再開第一回観測項目及び観測隊構成については現在その案が練られつつある。再開第一回観測には間に合わなくとも第二回以降も考えて観測項目を考えておくことが大切である。

宇宙空間研究の面では、東大に宇宙航空研究所が発足したが、宇宙科学部門は今後充実されて行く。現在何人かの会員が併任の形で関係しており研究者をこれから送りこむ必要がある。

講演会を聴いていて、数年前に入会された若い研究者の方々が着実に育っていることをはっきり感じられる。学会で学問の進歩を一歩一歩積み上げて行くに貢献している。この肩上げの姿勢になるものとして、地球磁気磁気学、研究、将来計画があげられる。本總會校にそれを学術会議地球物理学研究連絡委員会に提出する予定である。

学会外国会員数が増加したことは J.G.G. 誌が海外にますます浸透しつ、あることを示している。今後とも論文の質の向上に努力してほしい。

名誉委員長祝辞 長谷川名誉委員長は、オリンピック期間中に学会が前催されて京都から仙石まで来られ、学会に出席することによりテレビ観戦から救われたような気がすると思いを述べられた。オリンピックに際して感じられることとして選手の体力、能力、実力があっても、それが表現できないと入賞できないということであり、そのような面は学問の方面でも多分にある。論文を正しく書き、講演を誤りなく行って、表現を、また聴衆に訴えるという面を重視すべきである。このことを各個人の問題として考えなければならぬ時代であろうと思いの一端を披瀝して祝辞にされた。

謝辞 吉村評議員が参加者一同を代表して、第 36 回総会および講演会を開催するに当って尽力された加藤教授以下東北大学理学部地球物理学教室の方々に厚く謝辞を述べられました。

(4)

次回総会および講演会 次回は昭和40年春に東京で開催されることになったが、期日および世話担当機関は、後ほど関係者の間で相談してきめる。
懇親会 10月18日(日) 夕刻東北大学松下会館内食堂で会員多数の参加を得て、洋式にて盛大に行なわれました。

エクスカーション 10月19日(月) 講演会終了後、午後4時観光バスで出発、参加者34名、同日夜は青根温泉泊、翌20日朝蔵王エコーラインを経て蔵王山頂に上り、帰途は成々、川崎を経て午後3時仙台駅前着解散。20日は曇天でしたが、雲上の山頂では晴れていて美しい景観を楽しむことができました。また、途中曇天とはいえ、山肌紅葉は美しく学会での疲れを癒すことができました。

第36回総会および講演会関係の記事を終るに当たりまして、今回の総会講演会、懇親会の準備から、宿舎斡旋、エクスカーション計画に至るまで一切の御世話を十二分にしてくださいました東北大学理学部地球物理学教室加藤教授以下加藤研究室の方々に、あらためて会員の皆様方と共に厚く御礼申し上げたいと存じます。

学会事務所からお知らせ

本会報にそれよして、昭和39年度会費納入済の会員には、学会誌第16巻第2号を既布致しております。昭和39年度会費未納の方々に對しましては、慣例により会費納入がありますまで、会誌は当事務所に預らしておいていただきます。

第36回講演会講演予稿集はまだ残部が少々ございます。入手御希望の方は送料共250円を学会事務所にお送り下さい。

地球電磁気学研究将来計画を謄写印刷しました冊子は、御希望の方々に無料で送りいたします。入手御希望の方々は誠に御手数をかけて恐縮ですが、学会事務所まで稟書にてでも御一報下さるようお願いいたします。

1964年11月23-25日に米国ピッツバーグで開かれます
Second Benedum Symposium on Earth Magnetism のプログラムを、永田評議員から知らせていただきました。このプログラムを御覧になりたい方は、学会事務所まで御一報下さい。コピーを無料で差しあげます。